

平成13年6月13日

た や ち か こ
多谷千香子・東京高等検察庁検事の
旧ユーゴ国際刑事裁判所訴訟裁判官選挙当選について

1. 旧ユーゴ国際刑事裁判所（ICTY：International Criminal Tribunal for the former Yugoslavia）訴訟裁判官(ad litem judge) 選挙が、6月12日（日本時間13日）、第55回国連総会において行われ、わが国の多谷千香子候補（東京高等検察庁現職検事）が第1回目の投票で145票（有効投票数172、棄権1）を獲得し当選した。
2. 多谷検事は、旧ユーゴおよびルワンダの国際刑事裁判所を通じてわが国出身の初めての裁判官となると同時に、わが国にとって初めての女性国際裁判官となる。同検事の当選は、国際社会に対するわが国人権・人道分野における人的貢献として画期的であり、今後、同検事がその能力を十分に発揮し、ICTYの活動に貢献することが期待される。
3. この選挙は、27名の定員に対し、34カ国から51名が立候補した。多谷候補は、東京高等検察庁の現職検事であり、20数年にわたって裁判実務に携わった経験を有していること、1995年には国連マケドニア・ミッションのメンバーとして旧ユーゴの現場を熟知していること、国連女子差別撤廃委員として国連の場においても活躍していることに加え、数少ないアジア諸国からの女性候補である点等が、各国から高く評価されたことが、今回の高い得票に繋がったものと考えられる。

（参考1）旧ユーゴ国際刑事裁判所（ICTY）

ICTYは、旧ユーグースラビア社会主義共和国の領域内における紛争の激化に伴い発生した大量殺戮や人道に対する罪等に対する容疑者を訴追することを目的として、安全保障理事会決議により1993年にオランダのハーグに設置された国際刑事裁判所。本年3月には、14名の常任裁判官（Permanent Judge）が選出された。

（参考2）訴訟裁判官（ad litem judge）

訴訟裁判官とは、訴訟案件毎に国連事務総長から任命を受け、第1審の裁判体の一員として、常任裁判官と共に特定の訴訟案件の審理に携わる裁判官のことである。同裁判官制度は、ICTYにおける審理を加速化するために、昨年11月末の安全保障理事会決定に基づき今回初めて設けられた制度であり、常任裁判官（14名）のほかに、予め27名の訴訟裁判官を登録しておくものである。